

New Perspectives for the Turk Study : Ruins at the north foot of the Tian-shan mountains in China : General list of the names and location

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堀, 直 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00003530

天山北麓の故城跡

堀 直*

はじめに	II 昌吉回族自治州
1 天山北麓の遺跡分布 ——中国の情報公開——	III 烏魯木齊市
I 新疆各地の「普查」報告	IV 伊犁哈薩克自治州の塔城地区
II 「普查」報告以外の資料	V 博尔塔拉蒙古自治州
2 現地調査と「故城」について	VI 伊犁哈薩克自治州の伊犁地区
I 現地調査の経過	4 若干の考察
II 「故城」について	I 遺跡の共通点
III 作成したフォーマット	II 小結
3 天山北麓の故城跡一覧	III 残されている課題
I 哈密地区	おわりに

はじめに

チャガタイ＝トルコ語による最高傑作のひとつとされる『バーブル＝ナーマ』のなかで、筆者バーブルはつぎのように述べている。

「(フェルガーナ地方の)北には、以前には、アルマリグ *Almaligh*, アルマトゥ *Almatu*, そして諸文献にオトラール *Otrār* と記されているヤンギ *Yangi* のような都市があったが、今ではモグール *Moghūl* とウズベク *Özbek* によって破壊され、居住地域はまったく残されていない」(間野 1983: 191)。16世紀初めの記録である。

天山山脈以南の中央アジアでは、古来多くのオアシス都市が成立しており、歴史史料や調査記録から、それらの継続的なトレイスも、かなりの部分可能である。また筆者が以下に試みるような、故城の分布の一覧化も既に、一部で発表されている(荒川 1989-90)。しかし天山以北の地は、バーブルの言うように遊牧民の領域であり、断片的な情報しか伝わってこなかった。それ故、歴史地理的な考証においても、隔靴搔痒

* 甲南大学文学部、国立民族学博物館共同研究員

Key Words : Xinjiang, Tian-shan, Ruins, survey, Local gazettters
キーワード: 新疆, 天山, 故城, 普查, 地名誌

の感を禁じえなかった。

しかし最近の中国の情報の公開が進展したことで、この地域のかかなりの数の居住遺跡が確認されるようになり、直接現地を訪れる機会も増加してきた。

本稿は、最近に公開された現地文献をもとに、筆者のこれまでの現地踏査での知見を加えて試みた、天山北麓の居住遺跡に関する覚書である。

1 天山北麓の遺跡分布——中国の情報公開——

I 新疆各地の「普查」報告

最近の中国新疆ウイグル自治区（以降は新疆）での歴史学・考古学の研究動向のうちで特記されるもののひとつに、専門雑誌『新疆文物』の発行（1985年創刊）と公開、そして新疆各地での文物の実体・現状調査とその報告がある。後者は「普查 (survey)」と呼ばれ、前者に個別に発表されつつある。

新疆各地の普查あるいは調査報告のうちで、〈新疆文物〉編集部編の『新疆文物』（烏魯木齊 新疆維吾爾自治區文化庁刊）誌上に紹介されたものは、1998年第2期の通刊第50号までで、以下の通りである。

阿克蘇地区文管所 阿克蘇地区柯坪・烏什兩県文物調査	86-2
阿克蘇地区文管所 新和県文物普查資料	87-1
*昌吉市文化局 昌吉市文物普查資料	88-1
*博州博物館（韓雪昆） 博尔塔拉文物古跡調査 自治区文物普查弁公室・吐魯番地区文物普查隊	88-2
吐魯番地区文物普查資料汪編	88-3
楼蘭文物普查隊 羅布地区文物普查簡報	88-3
*新疆文物普查弁公室・昌吉文物普查隊 昌吉回族自治州文物普查資料	89-3
*新疆維吾爾自治區文物普查弁公室・博尔塔拉蒙古自治州文物普查隊 博尔塔拉蒙古自治州文物普查資料	90-1
*新疆維吾爾自治區文物普查弁公室・伊犁地区文物普查隊 伊犁地区文物普查報告	90-2
塔克拉瑪干沙漠綜合考察隊考古組 塔克拉瑪干南緣調査	90-4
*自治区文物普查弁公室・烏魯木齊市文物普查隊 烏魯木齊市文物普查資料 自治区博物館文物隊・輪台県文教局 輪台県文物調査	91-1 91-2

*自治区文物普查弁公室・哈密地区文物普查隊	哈密地区文物普查資料	91-4
自治区文物普查弁公室・巴州文物普查隊		
巴音格楞蒙古自治州文物普查資料		93-1
自治区文物普查弁公室・喀什地区文物普查隊	喀什地区文物普查資料汪編	93-3
*新疆维吾尔自治区文物普查弁公室・塔城地区文物普查隊		
塔城地区文物普查報告		94-3
自治区文物普查弁公室・克州文物普查隊		
克孜勒蘇柯尔克孜自治州文物普查報告		95-3
自治区文物普查弁公室・阿克蘇地区文物普查隊		
阿克蘇地区文物普查報告		95-4

これらのうち、特に1988年3月に、国家文物局の『文物地図集』の地域資料の整理のための、「全疆文物普查工作会议」（『新疆文物』88(1):50）が開かれた後に発表されるようになった報告からは様式が一変している。具体的には「吐魯番地区文物普查資料汪編」以降のものは、その所在表記に東経・北緯のデータが添付され、石器時代の遺跡から革命運動期の施設までも含む、網羅的な形式に統一され、地図——遺憾ながら極めて不鮮明——や一覧表をも備えている。本稿の基礎資料は、おもにこれらの「普查」報告からえられた情報である。

さて現在の自治区の行政区分では、天山北麓を天山山脈分水嶺を基準に、その水系の北流流域と規定し、ほぼ東から西へ並べれば、次のような区画となる。

哈密地区の伊吾県・巴里坤哈薩克自治県	昌吉回族自治州
烏魯木齊市（烏魯木齊県を含む）	石河子市
奎屯市	（伊犁哈薩克自治州の塔城地区の一部）烏蘇県・沙湾県
博尔塔拉蒙古自治州	

また複数の分水嶺が東西に並存する中部天山の部分では、イリ河流域も遊牧との関係からここに加える必要があり、行政区分では

伊犁哈薩克自治州の伊犁地区

が加わる。幸いなことに、面積的に狭い石河子市と奎屯市を除けば、ほとんどの当該地域の「普查」が既に公開されていることになる。先の「普查」報告一覧の冒頭に、*をつけたものが本稿での天山北麓の範囲に属する。

II 「普查」報告以外の資料

昨今の中国の開放・公開の流れは、上に紹介した資料とは別に、洪水のような調査報告及び出土品の情報を我々にもたらしてくれている。それらのうちで、天山の北麓の遺跡を個別的ではなく紹介したものとして、以下の文献が有用である。

a. 考古学的な専門報告

新疆社会科学院考古研究所『新疆考古三十年』烏魯木齊 1983

以降（三十年）と略す

王炳華「天山東段考古調査紀行」（王炳華 1987; 1988a; 1988b）

新疆文化庁《新疆文物志》編輯室『新疆文物志選稿』1 烏魯木齊 1988

以降（文物志）と略す

吉木薩尔県文管所『吉木薩尔文物宣傳資料選編』吉木薩尔 1990

以降（資料選）と略す

新疆社会科学院考古研究所『新疆文物考古新収獲』烏魯木齊 1995

以降（新収獲）と略す

これらが本稿の基礎資料の二番目のものである。

b. 各地の『地名図志』

後述する1993年の現地調査での、文献情報収集の面での特記すべき成果は、中国側の共同研究者たちの尽力で、各地の『地名図志』のうちの57種（自治区全部で約80種）を正式な送付をうけ、日本へ将来できたことであった。これらは現在、国立民族学博物館付設の地域研究企画交流センターに収蔵されており、研究者には閲覧の便が用意されている。

これらの『地名図志』の各冊には、精粗の差はあるものの、大体「名勝古跡」と題する項目で、所轄管内の遺跡の概況と地名の説明が掲げられており、他には見えぬ情報を含んでいることがある。本稿では、以下のような行政区の『地名図志』を参照した。

哈密地区

伊吾県・巴里坤哈薩克自治県

昌吉回族自治州

州・昌吉県・米泉県・阜康県・吉木薩尔県

奇台県・木壘県・呼図壁県・瑪納斯県

烏魯木齊市（烏魯木齊県を含む）

烏魯木齊市・烏魯木齊県

堀 天山北麓の故城跡

石河子市	石河子市
伊犁哈萨克自治州の塔城地区の一部	烏蘇県
博尔塔拉蒙古自治州	博楽市・精河県・温泉県
伊犁哈萨克自治州の伊犁地区	屯市・伊寧県・尼勒克県・鞏留県 特克斯県・察布查尔錫伯自治県

これらを、以降（地名志）と略し、個別の行政単位の名前を省略して引用する（ただし、『昌吉回族自治州地名図志』のみは、「州地名志」と略す）。

c. 最近の各地の地方志

最近自治区の地方行政単位別に、〈新疆维吾尔自治区地方志叢書〉と銘打ったシリーズで大部な現代版地方誌が、陸続と公刊されている。これらの中の文化の項目に、当該地の境内の遺跡に関する記事が、多分その地の文物管理处のスタッフの手によって、載せられている。98年までで、筆者は33点の刊行を確認しているが、それらのうちで「天山北麓」に相当するのは次の6点である。

『博楽市志』(92.4)・『呼図壁県志』(92.5)・『巴里坤哈萨克自治県志』・『瑪納斯県志』(共に93.4)・『伊吾県志』(94.4)・『奇台県志』(94.7)・『農八師墾区石河子市志』(94.8)・『塔城地区志』(97.10)。

これらを、以降（地方志）と略し、個別の行政単位の名前を省略して引用する。

2 現地調査と「故城」について

I 現地調査の経過

予備情報や確認資料としての文献とは別に、本稿では現地での知見も採用した。その大部分は、1991年7月-9月・1992年8月-9月・1993年8月の国立民族学博物館の海外調査プロジェクト（代表松原正毅氏）の一部であるが、そのほか筆者が新疆大学で研修中に、新疆文化庁文物局の韓翔先生の御好意で実現した、梅村坦氏の2次の現地調査に同行した際のデータも含まれている。それらを纏めて表示すれば、以下のようになる（起点・着点はいずれも烏魯木齊）。

1987年12月-88年1月 庫尔勒——庫車——吐魯番——哈密

1988年2月 吉木薩尔

1991年7月-9月 博尔塔拉——精河——克拉瑪依——塔城——和布克賽尔

- 布尔津——阿尔泰——富蘊——吉木薩尔——奇台
 ——木壘——巴里坤——吐魯番
 伊寧——察布查尔——石河子
- 1992年 8月 奎屯——霍城——（カザフスタンは省略）——伊寧——
 昭蘇——夏塔——鞏留——新源——那拉提——伊寧——
 石河子
- 9月 托克遜——阿拉溝——和碩——庫車——阿克蘇——阿合
 奇——烏什——庫尔勒
- 1993年 8月 焉耆——巴音布魯克——庫車
 木壘——巴里坤——哈密

当然のことながら、これらの実地調査の結果は、スライド・ビデオ情報を伴って、民族博物館や参加者の手許にあり、公開の用意がある。また、類似のコースで現地調査を行った長澤和俊氏の報告が既に公開されていることを付言しておく（長澤 1993）。

II 「故城」について

そもそも筆者は、清朝期の新疆史を専門としており、今回の調査でも主に清代のオアシスと城壁、それに卡倫（karun）軍台（potay）などを重点目標にしてきた。しかし、オアシスや近代の都市田郭は、南部新疆のそれらとの比較が不可欠であり、後者については国境線上に分布するという事情もあって、十分な観察例を得られなかった。これらについては、情報の公開がより緩やかになるであろう他日を期したい。それで今回は清朝期の都市遺跡——その多くは現在も発展的に経営されている——と過去のそれを、同一の地図上に並べることで、この地域での都市・田郭施設の歴史的ありかたを考える資料を供することにした。諸遺跡の所在と規模を一覧表化したところに、あるとすれば、本稿のメリットを考えている。そして、現地を訪れることのできた遺跡では、周辺の景観と現状のコメントを可能な限り付け加えた。

また本稿で故城と呼ぶ遺跡について補足しておけば、城の語のイメージはの日本語のそれよりもむしろ漢語に近い。漢語の城の本義は田郭（city walls）であり、集住遺跡も軍事的・政治的施設も、この地域では普通に田郭を持つので、城の語で表現される。その意味で、「古城」「廢城」「城跡」などと表記されているものも含まれる。また阿力麻里故城のように、田郭が消滅したような事例も考慮して、一定規模以上、おおよそ1万m²以上、の居住遺跡も数のうちに入れている。ただし、文書の出土や文献史料との対比の可能性のない、石器時代以前のは除外した。

要するに、紀元前2世紀頃からの、この地の集住・軍事・政治施設の遺跡一覧ということになる。

Ⅲ 作成したフォーマット

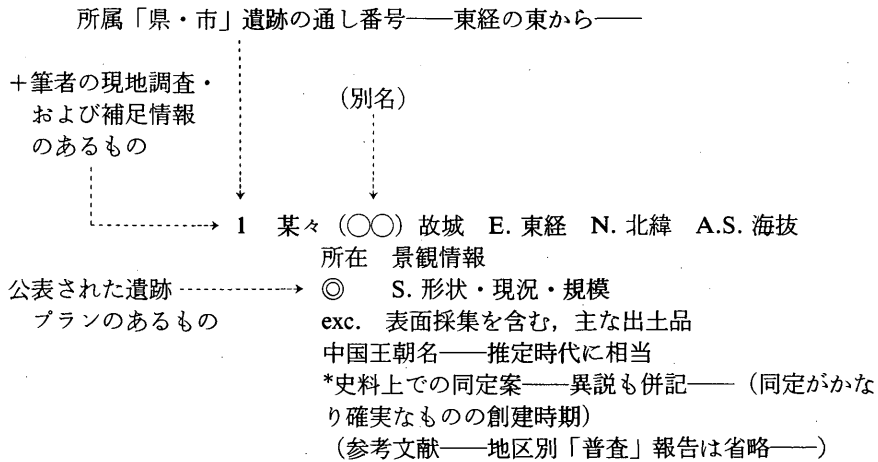
a リスト=アップの対象と呼称：

- 1 イリ水系を含む、東部天山山脈北麓の集住・軍事・政治施設の遺跡
- 2 諸言語の混交事情に鑑み、漢字表記に統一。(簡体字は日本の現行表記)

b 配列順序：

- 1 東から西へを基本に、現在の新疆の行政区分に従い
- 2 同一行政区画内の遺跡は、可能な限り所在の経度の東から西へと配列

c 表示内容と記号説明



3 天山北麓の故城跡一覧

I. 哈密地区

a 伊吾県

- 1 下馬崖郷水庫内遺跡 E.95° 14' 24" N.43° 12' 23"
 県城東方 下馬崖郷尤日庫買里村西南約 2.5 km. 宋・元時代
 (地名志: 112-113)
- 2 艾斯克協海尔故城 E.95° 14'10" N.43° 12'3"

县城東方 下馬崖郷尤日庫買里村西南約 3 km. 空都魯山北麓約 48 km.

◎ S. 城壁 正方形 一辺 101-103 m 高さ 2.2 m. 清代

(地方志: 288)

3 塩池故城

县城西方 塩池郷政府南南西約 1 km. 盆地南端 南山麓 周囲は砂漠

◎ S. 古い城壁 方形 面積 3,400 m² 辺周囲 300 m 前後 時代不明

(地方志: 286-288; 地名志: 113-114)

b 巴里坤哈萨克自治県

+1 大河故城 (破城子) E.93° 11'0"-10' 54" N.43° 39'40"-57" A.S. 1644 m

县城東北約 15 km. 大河郷干渠村西 3 km. 巴里坤湖に注ぐ大河の北岸

◎ S. 東西 360 m. 南北 210 m. 囲郭ほぼ残存

exc. 灰陶罐・黒陶罐・蓮紋瓦当・銅鏡・開元通宝銀錢 唐代 *唐・伊吾軍

(文物志: 70-71; 地方志: 410, 504; 地名志: 244; 新収獲: 540-543)

2 旧戸村東北故 (元木) 城 E.93° 09' 53" N.43° 48' 55" A.S. 1885 m

县城東北 大河郷旧戸村東北 12.5 km. 慕欽烏拉山北麓 山口

S. 正方形 一辺約 60 m 土塁跡・木柵 元-清代

(地方志: 410, 504; 地名志: 245)

+3 大泉湾村 (東) 破城子 E.93° 3' 32" N.43° 36' 19" A.S. 1643 m

县城東方 石人郷大泉湾村東 500 m.

S. 長方形 南北 230 m. 東西 810 m. 土塁の一部を残すのみ

清代 *老満城 (康熙56-1717年の遠征軍陣地)

(地名志: 245)

+4 巴里坤県満城 E.93° 1' 20"-2' 22" N.43° 35' 40"-36' 6" A.S. 1642 m

县城東部 新都市のため西壁は消滅

◎ S. 正方形 南・北・東囲郭良好に残る 一辺約 900 m 高さ約 6 m

清代 *會寧城 (乾隆37-1772-年)

(Mannerheim 1940: 375; 地名志: 245)

+5 巴里坤県漢城 E.93° 0' 4"-1' 7" N.43° 35' 39"-36' 6" A.S. 1665 m

县城西部 新都市のため南・東壁は消滅

◎ S. 正方形 西・北囲郭や西馬面など残存 新疆で最も良好

清代（雍正 9-1731-年）しばしば改修

(Mannerheim 1940: 375; 地名志: 244)

6 西破城子

皇城西北約 4 km. 花園郷

S. 正方形 一辺 300 m 前後 北 20-30 m 西南角 18 m を残すのみ

清代・対ジュンガル戦争の折りの障地 東破城子と同様の施設

(地名志: 245)

II 昌吉回族自治州

a 木壘哈薩克自治県

1 七个故城（七城子）

E.91° 8' 27" N.43° 34' 42"

大石頭郷塔克尔巴斯陶村東南 2.5 km.

S. 約 21,600 m² 方形の土壘 清代

2 伊尔哈巴克遺跡

E.90° 26' 25" N.44° 3' 26" A.S. 875 m

S. 約15万 m² 囲郭現存せず 漢-唐

+3 新戸故城

E.90° 17' 18" N.43° 52' 31" A.S. 1,064 m

新戸郷北北西 1.5 km. 木壘河東岸

S. 長方形 南北 280 m 東西 200 m 約5.4万 m²

exc. 灰陶・鉄犁。「開元通宝」 西遼期

+4 油庫故城（木壘古城）

E.90° 16' 25" N.43° 48' 20"

県城南郊 木壘河東岸

S. 北 420 m. 東 800 m. 南 480 m. 西 580 m. (周囲 2,280 m. 約 287,700 m²)

exc. 「一片の古陶のかけらも発見できず」 *唐（伊州・伊吾軍）独山守捉

+5 英格堡（馬場窩子or水草灣子）故城

E.89° 56' 45" N.43° 42' 43"

県城西 45 km. 英格堡郷西 1.5 km.

S. 東西 280 m. 南北 300 m. 約6.4万 m²

exc. 陶片（灰陶）・チャガタイ銀貨（?） 唐代

+6 旧木壘鎮

東城郷内 S. 極一部の囲郭（高 3 m） 清代

b 奇台県

- +1 老奇台鎮城跡 E.89° 53' 35" N.43° 48' 29"
 老奇台鎮西北部
 S. 約18万 m² 清代 (靖遠城-乾隆40-1775-年)
 (地方志: 549)
- 2 東地遺跡 E.89° 51' 22" N.44° 01' 05" A.S. 800 m
 西地郷東地村南南東約 3 km.
 S. 約 12,200 m²
 exc. 元代瓷碗 唐-元
 (譚 1989: 129; 地方志: 548)
- 3 独山 (大西溝) 故城 E.89° 50' 45" N.43° 32' 39"
 県城東南約 60 km. 天山山中
 S. 約 102,070 m² 清代
 (地方志: 549)
- 4 大湾 (唐朝圪墘) 遺跡 E.89° 46' 27" N.44° 51' 55" A.S 740 m
 西地郷東地村 12隊西北 1.2 km. 河の東西岸
 S. 約 12,000 m² 唐
 (地方志: 549)
- 5 石城子故城 E.89° 45' 45" N.43° 37' 00" A.S. 1,770 m
 半截溝郷麻溝梁村東北東約 1 km.
 ◎ S. 残部 北壁東西 280 m 西壁南北 155 m *漢・疏勒城
 (王炳華 1988a: 2-7; 文物志: 53-54; 地名志: 201; 地方志: 546-557)
- +6 北道橋故城 E.89° 42' 15" N.44° 07' 55" A.S. 704 m
 県城東北 20 km. 西地郷橋子村南南東約 1 km.
 ◎ S. ほぼ正方形 西 178 m. 北 150 m. 南 135 m. 東 158.
 exc. 陶片・石製「赤金衛都閩府」印 *唐 (回鶻路) 郝遮鎮
 (魏 1987: 70; 王炳華 1988a: 10-11; 文物志: 60; 地方志: 548)
- 7 托乎提尼亞孜坎尔孜故城 E.89° 38' 31" N.43° 59' 10" A.S. 813.3 m
 県城東南約 5 km. 古城郷果園村
 S. ほぼ正方形 東西約 160 m 南北約 165 m 宋-元
- +8 吐虎馬克 (園芸場) 故城 E.89° 36' 35" N.43° 48' 2" A.S. 830 m
 県城東南 4 km. 古城郷東南約 2 km. 水磨河西岸

堀 天山北麓の故城跡

- ◎ S. 北 370 m. 南 370 m. 東 450 m. 西 400 m. 1.5万 m²
exc. 陶器片 (遼・元期)・鉄刀 *唐・蒲類鎮
(王炳華 1988a: 11; 文物志: 59; 地名志: 201; 地方志: 548)
- +9 奇台 (唐朝墩・水磨河畔) 故城 E.89° 35' 27" N.44° 01' 46"
 县城東約 1 km 水磨河畔
◎ S. 東西 235 m. 南北約 400 m.
exc. 陶盆・罐・瓮・青瓷碗・チャガタイ銀貨 *唐・蒲類県
(王炳華 1988a: 10-11; 文物志: 58-59; 地名志: 200; 地方志: 547)
- +10 老滿城遺跡 E.89° 35' 07" N.44° 00' 42"
 县城西北部
S. 約39.6万 m² ほぼ正方形 清代
- c 吉木薩尔県
- 1 頭工 (得勒呼蘇台) 故城 E.89° 22' 4" N.43° 58' 32" A.S. 680 m
 县城東 14 km. 二工郷六泉西村南 1 km.
S. 正方形 東西 400 m 約 60,000 m² 唐-元
(地名志: 192; 州地名志: 288)
- 2 后堡子故城 E.89° 12' 40" N.44° 3' 42"
 县城北 北庭郷后堡子村郷学校院内
S. 長方形 約18万 m² 清代
- +3 北庭故城 E.89° 12' 27" N.44° 5' 49"
 县城北 8 km. 北庭郷政府北 4 km.
◎ S. 周囲 4,596 m. (内城 3,003 m.) 約150万 m²
exc. 陶片 *唐・北庭都護府・庭州・金満県・ビシ=バリク
(三十年: 148-149; 地名志: 183-185; 新収獲: 550-562)
- 4 小西溝 (賊圪達梁) 故城 E.89° 7' 40" N.43° 48' 52" A.S. 1,380 m
 泉子街郷政府西北 3 km. 大龍口河河畔
S. 東西 150 m 南北 250 m 約 26,000 m² 新石器-唐
exc. 五銖銭・漢瓦 *車師後部努塗谷・漢・金満城
(資料選: 39; 地名志: 194; 州地名志: 256; 闕・閻 1992: 64-66)
- 5 東大龍口 (泉子街) 故城 E.89° 6' 36" N.43° 44' 49" A.S. 1,600 m
 泉子街郷西南 8.5 km. 東大龍口溝口 子湾

- S. 正方形 57 m 約 4,400 m² 唐-元 *漢・疏勒城・唐・石会漢戍
(張 1981: 151; 資料選: 38-39; 地名志: 194; 州地方志: 286)
- 6 營盤梁遺跡 E.89° 4' 9" N.44° 16' 42" A.S. 573.6 m
紅旗農場 1 場16隊南 1 km.
S. 長方形 約 11,466 m² 唐
- 7 雙河(唐朝城)故城 E.89° 2' 6" N.44° 2' 52" A.S. 695 m
景城西 13 km. 三台鎮慶陽湖鄉雙河街上村北 1 km.
S. 東西 120 m 南北 100 m 約 11,000 m² *唐・沙鉢守捉
(文物志: 57-58; 資料選: 38; 地名志: 193; 州地名志: 288)
- 8 雙河遺跡 E.89° 2' 3" N.44° 2' 57" A.S. 690 m
景城西 三台鎮慶陽湖鄉雙河街上村北 1.5 km.
S. 約10万 m² 唐
- 9 雙河(育昌堡)故城 E.89° 1' 27" N.44° 2' 35"
景城西 三台鎮慶陽湖鄉雙河街上村 清代
(地名志: 193; 州地名志: 290)
- 10 八戸地(六戸地)故城 E.88° 54' 49" N.44° 8' 13" A.S. 620 m
景城西 三台鎮北 6 km. 羊圈台子村 東北に北庭故城を望む 北は砂漠
S. 長方形 東西 125 m 南北 250 m *唐・馮洛守捉
(文物志: 56-57; 資料選: 37-38; 地名志: 193-194; 州地名志: 288; 新収獲: 607)
- 11 護堡子(柳樹河・時和堡)故城 E.89° 08' N.44° 00'
景城西 4.5 km. 民家に囲まれる
S. 正方形 120 m *清・乾隆36(1771)年築
(資料選: 39; 地名志: 192-193; 州地名志: 290)
- 12 大泉故城
S. 東西 260 m 南北 180 m 1979年耕地化
(文物志: 64)
- 13 韭菜園子故城
大有鄉東北 10.5 km. 上韭菜園子村山中
S. 東西約 200 m 南北 180 m 1958年耕地化 唐
(地名志: 194; 州地名志: 289)
- 14 老台(惠徠堡)故城

堀 天山北麓の故城跡

老台郷南 2 km. 南門村 現在は耕地 *清・乾隆43(1777) 年築
(地名志: 193; 州地名志: 290)

15 保惠故城

県城西北部 西門村 清
(地名志: 195)

16 愷安故城

県城西北部 保惠故城と相連なる 現在は居住区 *清・乾隆37(1772)
年築
(州地方名志: 195)

d 阜康県

1 北庄子(滋泥泉)故城 E.88° 36' 20" N.44° 10' 5"
滋泥泉郷東北東約 12 km. 北庄子村北
S. 約 46,200 m² 長方形(?) 南北 220 m 東西 210 m 唐-元
(文物志: 61-62)

2 六運故城 E.88° 01' 45" N.44° 10' 42"
九運街郷西北約 3.5 km.
S. 約 1.2万 m² 長方形 南北 400 m 東西 300 m 現在は耕地
exc. 灰陶・チャガタイ金貨 唐-明 *唐・渠犁・Kullug
(文物志: 54-56; 地名志: 181; 州地名志: 289; 戴 1994: 116-117)

3 阜康旧県城 E.87° 58' 22" N.44° 09' 13"
県城西南部糧食局院内 清代

4 阜北(唐朝城)故城 E.87° 53' 38" N.44° 18' 07" A.S. 476 m
阜北農場基建隊東側
S. ほぼ正方形 一辺約 65 m 約 3,600 m² 唐

e 米泉県

1 下沙河故城 E.87° 35' 30" N.43° 59' 30"
県城西北約 6 km.
S. 約 163,300 m² 南北 460 m 東西 355 m 唐-元 *唐・輪台县治
(文物志: 62-63; 地名志: 111; 州地名志: 289)

f 昌吉市

- 1 新渠故城 E.87° 26' 27" N.44° 12' 40"
 103团部西北約 17 km.
 ◎ S. 約2.86万 m² 南北 252 m 東西 126 m 清代
 (文物志: 69-70)
- 2 昌吉故城 E.87° 18' 18" N.44° 01' 26"
 市区東北部 延安北路と寧辺路の交差点付近
 ◎ S. 約66万 m² 長方形 南北約 1,100 m 東西約 600 m
 exc. 大量のチャガタイ銀貨 宋-元
 (文物志: 64-67; 州地名志: 288)
- 3 寧辺故城 E.87° 17' 47" N.44° 01' 51"
 市区西北部
 S. 約2.5万 m² 正方形 一辺約 500 m 清代
 (文物志: 67-68; 地名志: 119)
- 4 蘆草溝故城 E.87° 09' 00" N.44° 04' 39"
 市西北西約 13 km. 二六工郷と榆樹溝郷の境
 ◎ S. 約14.9万 m² ほぼ正方形 南北 400 m 東西 380 m 清代
 (文物志: 68-69; 地名志: 120; 州地名志: 289-290)
- 5 榆樹溝故城 E.87° 05' 00" N.44° 06' 16"
 市西北西約 19 km.
 S. 約 1 万 m² 正方形 清代

g 呼図壁県

- 1 阿魏灘故城(元城子) E.86° 48' 36" N.44° 01' 13" A.S. 823 m
 県城西南約 20 km. 石梯子郷阿魏灘村 呼図壁河東岸台地
 S. 不規則な多辺形 面積18,500²
 exc. 宋元期の銅鏡 唐-元 *元・古塔巴城
 (戴 1991: 58-60; 地方志: 557)
- 2 馬橋(馬橋子)城 E.86° 48' 36" N.44° 01' 13"
 県城西北約 84 km.(106团7連耕地中)
 S. 囲郭跡 南北 350 m 東西 170 m 高さ 3 m 1865年ムスリム徐学功の築城

堀 天山北麓の故城跡

(地名志: 160; 州地名志: 290; 地方志: 557)

3 馬橋小城 (仮称)

馬橋 (馬橋子) 城の西北方「不遠」処

S. 囲郭跡 南北 195 m 東西 170 m 高さ 4 m 四周に水堀跡 時代不明

(地方志: 557)

4 頭道溝故城

棗園農場西北 9 km 頭道溝に隣接

S. 面積 3,600 m² 囲郭東西北ほぼ残存 高さ 4 m 四周に水堀跡

清・同治年間

(地名志: 160; 州地名志: 290; 地方志: 557)

5 白圪墪故城

白圪墪村東の台地上

S. 南北約 100 m 東西約 66 m 囲郭はほとんど破損 残存部の高さ 2~3

m 時代不明

(地名志: 159-160; 州地名志: 290; 地方志: 557)

6 古塔巴 (唐朝) 城

園戸村郷政府の北 公安局看守所の南

S. 南北 800 m 東西約 450 m 囲郭残存部の高さ約 10 m 県内最大規模

ただし1965-66年に、耕地化して消滅 西遼期

(地方志: 557-558)

7 景化城

現県城内 清・乾隆29(1764)年

(地方志: 558)

h 瑪納斯県

1 塔西河古堡

E.86° 24' 09" N.44° 14' 08" A.S. 490 m

県城東 16 km 包家店郷東約 7 km. 塔西河村西約 600 m 烏伊公路の北 2 km

◎ S. 南北 150 m 東西 175~180 m 西面残壁高さ 3 m 約2.2万 m²

exc. 陶瓷, 缶 唐-元

(王広榮 1989: 107; 地名志: 217; 州地名志: 289; 地方志: 434)

2 塔西河故城

E.86° 22' 38" N.44° 13' 19"

県城東 16 km. 包家店郷塔西河村西南 2 km. 烏伊公路の北 300 m.

- S. 面積 5 万 m² 東西 2 門跡 清・乾隆42(1777) 年築 千総駐地
(地名志: 217; 地方志: 434)
- 3 樓南故城 (瑪納斯破城子・唐城) E.86° 14' 40" N.44° 18' 45" A.S. 447 m
 県城東南約 2 km. 頭工郷樓南村
 ◎ S. 約29万 m² 長方形 東約 620 m 南 500 m 西・北 520 m 周囲
 2,260 m
 exc. 清末外国人が数台の車で持ち去る・文革中も散逸 唐-元 *唐・
 烏宰守捉
 (王広榮 1989: 106; 地名志: 217; 地方志: 434)
- 4 康吉城残牆 E.86° 12' 28" N.44° 18' 41"
 県城西北部 烏伊公路の北 50 m. 唐-元
 (地方志: 434)
- 5 土炮營円城 E.86° 07' 22" N.44° 40' 49"
 六戸地郷北約 3 km.
 S. 約1.4万 m² 円形 唐-元
- 6 土炮營遺跡 E.86° 07' 22" N.44° 40' 49"
 六戸地郷西北約 3 km.
 S. 約1.5万 m² 正方形 唐-元
- 7 西營城 (錫城跡) E.86° 40' N.44° 52' 36"
 県北部 148団營堡村北 2 km. (2 連中)
 S. 約 274,950 m² 唐+清・同治期の駐营地
 (地名志: 219-290; 地方志: 434)
- 8 馬橋城 E.86° 17' 40" N.44° 56' 36"
 県北部 149団馬橋村 (15連)
 S. 約 62,500 m² 清代
 (地名志: 219)
- 9 野馬城 E.86° 12' 00" N.44° 57' 56"
 県北部 149団野馬村 (良種連) 北 500 m 阜城鎮西北 2 km.
 S. 約 28,200 m² 正方形 清・同治期の駐营地
 (地名志: 220; 地方志: 434)
- 10 東 (阜) 故城 E.86° 10' 09" N.44° 57' 29"
 県北部 149団城南村 北約 1.2 km. 阜城鎮西 3 km.

S. 約 52,800 m² 正方形 各約 300 m 清・同治期の駐营地
(地名志: 220; 州地名志: 289; 地方志: 434)

11 西故城

県北部 150団部南 清・同治期の駐营地

附註: 「普查」の報告が発表されていない石河子市に関しては、断片的ながら「石河壟区」に、東阜城・西古城・野馬城が発見されたという情報が存在する(辛 1991: 62)。確かに、石河子市の地方志を検索して見ると、石河子市に本部を置く、建設兵团農八師傘下の148団・149団・150団が記載されている(地方志: 付図, 175, 181-182)。となると、瑪納斯県属の7から11までの遺跡は石河子市の項をたてて配列すべきなのかも知れない。しかし他の情報と矛盾することになるし、兵团と一般行政区画との関係は、今ひとつ不明な部分があるので、地名志の記述に従って、これらの5つの遺跡は瑪納斯県に配しておく。

III 烏魯木齊市

1 東河壩故城 E.88° 28' 33" N.43° 24' 31"

烏魯木齊県東溝郷東南約 2 km. ボグト山南麓 東河壩西岸

S. 南北 200 m 東西 50 m 青銅器時代-漢

2 葦子街村爛故城 E.88° 27' 11" N.43° 25' 6"

東溝郷葦子街村西南約 600 m. 東溝河西岸

S. 現存 東西 90 m 南北 20 m 青銅器時代-漢

3 八家湖村故城 E.88° 21' 24" N.43° 21'

達坂城鎮八家湖村北約 200 m 東溝河西岸

S. 旧約10畝 鉄器時代

+4 峡口村疙瘩城 E.88° 20' 9" N.43° 19' 31"

達坂城鎮東南約 4 km. 峡口北部約 4 m の小石山上

S. ほぼ正方形 周囲約 360 m 鉄器時代? 清代

5 嘉徳城 E.88° 18' 20" N.43° 21' 16"

達坂城鎮口

S. 東西 407 m 南北 305 m 清代 (1782年)

6 塩湖故城 E.88° 6' 7" N.43° 24' 56"

塩湖火車站西南約 500 m.

- S. 南北の2区 南区：南北 44 m 東西 45 m 北区：南北 94 m 東西 45 m
清代
- +7 夏熱嘎故城 E.87° 52' 50" N.42° 49' 39"
市南部 南山区夏熱嘎口東 阿拉溝口鐵路大橋東約 250 m.
S. 南北 87.2 m 東西 76 m. (石堡) 唐代
(黃文弼 1958: 2; 地名志: 261)
- 8 七道灣城 E.87° 38' 24" N.43° 52' 39"
七道灣鄉政府付近
S. 正方形 周囲約 800 m 清代 *屢豐堡 (乾隆27-1762-年)
- +9 迪化城 E.87° 37' 24" N.43° 47' 44"
烏魯木齊市光華路南端 囲郭は現存せず
S. 旧周囲 2.95 km. 清代 (乾隆28-1763-年+光緒12-1886-年)
(Mannerheim 1940: 306; Wiens 1963: 446; 白須 1988a)
- 10 六道灣城 E.87° 35' 54" N.43° 50"
六道灣西村 3・4 隊内
S. 南北 249 m 東西 228 m 清代 *惠徠堡
- 11 三工城 E.87° 34' 15" N.43° 54' 18"
二工鄉三工村居民区
S. 正方形 南 227 m 東 270 m 清-民国
- 12 二工城 E.87° 34' 2" N.43° 52' 31"
二工鄉政府東北
S. 正方形 周囲約 800 m 清代 *懷義堡 (乾隆27-1762-年)
- 13 鞏寧城 E.87° 33' 46" N.43° 48' 17"
烏魯木齊市内 新疆八一農学院院内
S. 旧周囲 5.36 km. 清代 (乾隆37-1772-年)
- 14 皇城
烏魯木齊市内 団結路中段 清代 1864年 清真王妥明の宮殿跡
(地名志: 260)
- 15 四工城 E.87° 33' 24" N.43° 54' 47"
二工鄉三工村 3 隊居民区
S. 正方形 東 245 m 南 269 m 清-民国 *宝昌堡 (乾隆27-1762-年)
- +16 烏拉泊故城 E.87° 27' 11" N.43° 25' 6"

堀 天山北麓の故城跡

市南方 烏拉泊村南

◎ S. 南北 550 m 東西 450 m 高さ 4 m 唐-元

(文物志: 72; 林 1979: 41; 白須 1988b: 13-15; 地名志: 303)

17 頭屯街破城子 E.87° 20' 26" N.43° 59' 4"

五一農場 5 隊居民区

S. 南北 244 m 東西約 184 m 清代 *千総堡 (乾隆24-1759年)

IV 伊犁哈薩克自治州の塔城地区

a 沙湾県

1 鉄門檻遺跡 E.85° 17' N.44° 58' A.S. 315 m

県城の北北西 70 km ジェンガル砂漠の南縁 マナス河の北 3 km

S. 方形 一辺 50 m の土塁跡 清代旧沙湾城

(地方志: 802)

2 水磨溝老営 E.85° 50' N.44° 20' A.S. 495 m

烏蘭烏蘇郷水磨溝村

S. 南北 102 m 東西 105 m *清代軍台

(地方志: 802)

b 烏蘇県

+1 烏蘇鎮古城 E.84° 40' 30" N.44° 26' A.S. 472 m

県城内

四方形 城壁の一部残存 清代以来の旧烏蘇鎮

(地方志: 801)

2 金將軍老営 E.84° 37' 20" N.44° 22' 11" A.S. 380 m

西湖郷政府西北 500 m 1870-80代 駐屯旗兵の兵営

(地名志: 116; 地方志: 801)

V 博尔塔拉蒙古自治州

a 精河県

1 安阜旧城 E.82° 52' 52" N.44° 36' 32" A.S.約 314 m

县城西北郷農機站家属院裏 精河東岸約 650 m

S. ほぼ矩形 南北約 166 m 東西約 122 m 清代

b 博尔塔拉（博樂）市

+1 達勒特故城 E.82° 20' 50" N.44° 45' 32" A.S. 約 325 m

博尔塔拉市東南約 27 km. 達勒特郷東南約 9 km. 破城子村北 博尔塔拉河
と大河沿子河の合流点の北岸

◎ S. 東西 1,000 m 南北 500 m.

exc. 銅鏡・チャガタイ貨幣その他 唐・宋-元 *唐・雙河都督府 元・
普刺城

(文物志: 73-74; 韓 1992a; 1992b; 地名志: 165; 地方志: 555-557; 新収獲:
593-594)

+2 青得里郷（杜尔布里金・博樂）故城 E.82° 00' 30" N.44° 54' 00" A.S. 約 520 m

博尔塔拉市西約 5 km. 博尔塔拉市青得里郷阿里翁白新村西南隅 博尔塔拉
河北岸

◎ S. 東西 385 m 南北 280 m

exc. 西遼陶壺・元代瑪瑙飾り 唐-宋 *元・普刺城

(張 1987: 154-158; 地名志: 165-166; 地方志: 556; 新収獲: 594)

c 温泉県

1 哈日布呼故城 E.81° 35' 45" N.44° 58' 30" A.S. 約 820 m

温泉県東約 50 km. 哈日布呼鎮南約 4 km. 圭屯布拉克村西南角 博尔塔拉
河南 2 km.

S. ほぼ長方形 東西約 448 m 南北 386 m

exc. 銅鏡・アラブ文字銅錢 唐・宋-元

(文物志: 74; 地名志: 147; 新収獲: 594-595)

VI 伊犁哈薩克自治州の伊犁地区

a 伊寧県

1 阿布那什城 E.81° 37' 22" N.43° 49' 38" A.S. 700 m

阿熱吾斯坦郷布拉克巴什村西 2.5 km.

堀 天山北麓の故城跡

- S. 長方形 南北 230 m 東西 140 m (周囲 740 m) 元
- 2 布拉克巴什城 E.81° 35' 42" N.43° 49' 03" A.S. 690 m
布拉克巴什村北 200 m.
S. 正方形 一辺 200 m 元
- 3 可坦買里城 E.81° 35' 26" N.43° 49' 22" A.S. 690 m
布拉克巴什村北 600 m.
S. 正方形 一辺 200 m (周囲 800 m) 元
- 4 吐魯番于孜 (大金場・小金場・阿脱諾克) 故城 E.81° 30' 10" N.43° 00'
伊寧市東北約 26.2 km. 吐魯番于孜村北
S. 二城連結 大金場: 正方形 周囲約 1,400 m
故城 東西約 1,800 m 南北約 4,500 m
exc. 銅銭・アラブ文字銭 唐-元 *弓月城
(三十年: 170-171; 孟 1979: 129-133; 黄烈 1989: 275-276; 地名志: 121)

b 霍城県

- +1 惠遠老城 E.80° 56' N.43° 56' 30" A.S. 583 m
惠遠郷伊犁河畔 南側はイリ河の流れで崩壊・西壁も無し
◎ S. 残存部分 東 860 m 北 840 m 高 4-5 m 清代 (乾隆
28-1763-年)
(文物志: 75-76)
- 2 綏定城 E.80° 52' 30" N.44° 03'
水定鎮内 清代 (乾隆27-1762-年)
- 3 廣仁城 E.80° 51' N.44° 13' 45"
蘆草溝郷政府駐地 清代 (乾隆45-1780-年)
(地方志: 567)
- +4 瞻徳城 E.80° 50' 35" N.44° 14'
清水鎮内 西側田郭の一部残存 清代 (乾隆42-1777-年)
(地方志: 567-568)
- 5 塔勒奇城 E.80° 48' 40" N.44° 02' 35" A.S. 614 m
三道河郷塔勒奇城内 塔勒奇河東岸
S. ほぼ正方形 南北 358 m 東西 322 m 清代*塔勒奇城 (乾隆
26-1761-年)

(三十年: 170; 地方志: 567)

- 6 磨河(赤木儿・阿尔吞勒克)故城 E.80° 48' 26" N.44° 03' 45" A.S. 624 m

三道河郷塔勒奇村北 良繁場2隊

◎ S. 長方形(?) 一辺約 350 m 周囲 1,420 m/2,282 m

唐-元 *阿力麻里城

(三十年: 170; 孟 1979: 133-135; 黄 1989: 276; 地方志: 566-567)

- +7 三宮城 E.80° 47' 30" N.44° 06' 40" A.S. 640 m

三宮郷三宮水庫東側

S. ほほ正方形 南北 196 m 東西 193 m 元

- 8 霍尔果斯(阿力麻里)故城 E.80° 30' N.44° 14' 30" A.S. m

61団場2連 耕地の中 克干山の南麓

S. 周囲50華里 現在は平地

exc. 金・銀・銅貨・十字架・シリア文碑 元 *阿力麻里城

(三十年: 169-170; 張 1987: 149-153; 黄烈 1989: 277; 地方志: 565-566)

- 9 索倫故城 E.80° 29' 40" N.44° 09' 30" A.S. 688 m

62団場6連農田中

S. ほほ正方形 南北 385 m 東西 375 m 唐-元 晴

(地方志: 568)

- 10 拱宸城 E.80° 28' N.44° 10'

老霍城62団駐地 清代(乾隆45-1780-年)

(地方志: 568)

c 察布查尔錫伯自治県

- +1 海努克故城 E.81° 21' 40" N.43° 45' 38"

海努克郷海努克村東北 6.6 km. 伊車布哈渠南岸

S. 二重囲郭 内城: 長方形 南北約 431 m 東西 390 m 高約 2.05 m

exc. 刀・銅劍・銅騎馬像 元 *也里虔城

(三十年: 171-172; 黄烈 1989: 277-278; 地名志: 133)

d 鞏留県

- +1 達尔堤城 E.82° 25' 08" N.43° 25' 19" A.S. 843.6 m

県城東 16 km. 阿尕尔森郷達尔堤村西 1 km. テケス河・クネス河の合流点

堀 天山北麓の故城跡

西岸

◎ S. 正方形 南北 100 m 東西 87 m 唐-元

2 夏尔乎故城

県城西約 24 km. 鉄阿熱克郷夏尔乎村北

S. 規模かなり大 1950代には囲郭残存 現在は消滅

(地名志: 92)

3 特克斯塔柳遺跡

E.82° 24' N.43° 27' 05"

県城西方 達尔特村西北部

S. 南北約 200 m 東西約 300 m 清・乾隆期「回屯」跡

(地名志: 92)

e 昭蘇県

1 布尔拖里哈城堡

E.80° 46' 18" N.42° 52' A.S. 1,705 m

県城西南 43 km. 喀拉蘇郷政府北約 6.5 km. 布尔拖里哈草原上

◎ S. 正方形 一辺 75-95 m ?

2 胡土乎城堡

E.80° 42' 30" N.42° 41' 41" A.S. 1,815 m

県城西南 61 km. 75団場部南約 2.5 km. 天山北麓胡土乎尔溝口の草原上

◎ S. 小堡城が南北に並ぶ いずれもほぼ正方形 一辺約 50 m

+3 夏塔(下台)故城

E.80° 32' 48" N.42° 51' 16" A.S. 1,700 m

県城西南 59 km. 夏塔郷政府北約 19 km. 北をテケス河・東をシャタ河に臨む台地

◎ S. 東側の部分 C¹⁴による推定 BC.435-BC.10

(三十年: 154; 新収獲: 600-601)

4 波馬故城

E.80° 15' 44" N.42° 45' 15" A.S. 1,775 m

県城西南 83 km. 夏塔郷74団場部北約 7 km.

◎ S. 正方形 一辺 350-360 m 周囲 1,420 m 唐-西遼 (C¹⁴による推定 BC. 320-AD. 160)

(新収獲: 601-602)

5 尕尔墩壩故城

(三十年: 154)

f 尼勒克県

- 1 賽普勒城 E.82° 31' 09" N.43° 46' 45" A.S. 1,101 m

県城東約 2 km.

◎ S. 南北 340 m 東西 320 m 面積120畝 (約 790 a.) 唐-元代・清
(地名志: 154)

- 2 哈拉蘇故城 (仮名)

県城西約 30 km. 哈拉蘇以南の丘陵地帯 未調査

g 新源县

- 1 阿克奇城 E.83° 21' 13" N.43° 29' 18" A.S. 859 m

県城北 10 km. 則克台鎮阿克奇村南約 200 m.

◎ S. 正方形 一辺 220-240 m

- +2 阿勒吞城 E.83° 08' 44" N.43° 25' 30" A.S. 867 m

新源鎮阿勒吞庫尔干村北 鞏乃斯河南岸台地

◎ S. 正方形 一辺 189-188 m 唐-西遼

4 若干の考察

I 遺跡の共通点

現地調査での最も印象深い光景から始めよう。筆者らの調査は盛夏を中心に行われたが、ほとんどの故城遺跡から、南に雪を戴く山嶺を見ることができた。紺碧の空と緑の草原あるいは褐色のゴビの間に、ダーク=ブルーの山並と白いピークの取り合わせは、天山北麓の共通する景観である。そして山麓から北へ離れば、山影は段々と地平線に沿って低くなり、逆に近づけば南に屏風のようにそり立つ天山を仰ぎ見ることになる。

天山北麓の故城は、この景観の共通性から判るように、南側の天山から北流する雪解け水によって維持されていた。北流する河には、200 km 近い長さを有する瑪那斯河や奎屯河などもあるが、天山が視野から消えるような遠隔地区、例えばジュンガル低地などでは故城の存在は知られていない。先掲のリストの故城が、北緯の43-44度のラインにつらなっていることを改めて確認しておきたい。また O.N.C. や T.P.C. などの、地形表現に信頼のおける地図上に、それらの所在をドットで案配してみれば、

大部分が山麓扇状地に位置していることも判明するであろう。

次にやや細かく、先掲のフォーマットに従って故城の立地を見てみると、規模の大小はともかく、河川に沿いながらも、山口・山麓の際——扇状地の上部——に位置するものと、やや離れて存在するものの2種に分類できる。天山山脈の雪解け水が、山岳地帯から平原に流出する処と、その分流が形成した台地の一画との2類と言い替えることもできる。

これらでは、山口に近いものよりは、下流の台地上の故城の方が規模の大きいという一般の傾向がある。政治と軍事の成立事情の相違が予想されるが、さらに資料を集めて考察したい。

形状は、圧倒的に正方形の囲郭を持つものが多い。円形のものはまだ確認されていない。内城や城内を区分する郭壁もかなり一般的である。

出土品などについては、調査の精粗が極端であるので、中国の学界を中心とした遺跡の歴史上の城市への比定と同様、その一部を紹介するにとどめているので、ここでも言及はしない。

II 小結

天山北麓の故城遺跡の分布は、漢籍史料と照合できるように、東西の経済・政治的なルート上に並んでいたことが確認される。がしかし、東西に走る天山山脈の垂直高度差は、古来遊牧民族たちに良好な夏营地と冬营地とを提供していたし、これらの遺跡が、彼らの季節移動のルート上にあることも、また確認される場所である。

故城が遊牧民の南北の移動ルートの、途中——春・秋营地——なのか・末端——冬营地——なのかも、今後の調査・検討にまつが、おそらく両種が混在している印象をうけた。

この遊牧民の動線と遺跡の分布の言及は、パノバ溪谷に情報が集中している。古くの王延徳はさておいても、近代のスタイン (Stein 1928) やマンネルヘイム (Mannerheim 1940)、それに現代の張承志 (張 1981) や戴良佐 (戴 1992a) の実地踏査や白須浄眞 (白須 1988b) の研究が挙げられる。白須が図示しているように (白須 1988b: 20)、この東部天山で最も巨大な扇状地を有するこの河谷は、その山口にいくつかの故城を擁する泉子街の集落がある。そして、ここからは南にカザフの夏营地を仰視し (Stein 1928: 558)、北に北庭故城を俯瞰することができる (池 1990: 47)、そういった立地にある。このような具体的な景観報告が、全ての河谷で行なわれれば、天山の南北を結ぶための政治・軍事的な縦断路とは異なった、遊牧民との経済的関係

も視野に含めた、遺跡分布の意義の解釈が可能となるであろう。

Ⅲ 残されている課題

そもそも本稿で主材料とした「普查」は、今後の個別調査の準備のためのデータであり、当事者たちも認めているように精粗の差があり、一部の空白地区も存在する。a 遺跡分布の調査の精度を高めることが、まず期待される。次には遺跡の現代中国の耕地開発のために、天山北麓のオアシス規模が爆発的に拡大した結果、多くの故城遺跡が耕地の中に埋没しつつある。と同時に従来からの地名も失念・変容されつつあるようである。遺跡や言語の時代的重層性に鑑みれば、b 調査の緊急性も大きな課題と言わねばならない。そして遊牧民と遺跡の関係を考察するためには、既述の景観情報の件とは別に、囲郭の周囲の未発掘遺跡、言い替えればヒンター＝ランドの耕地・牧地の、歴史時代の墓地・埋葬遺跡の発掘が必要であろう。むろん囲郭遺跡の発掘と併行して、事例は少なくとも、c 地域構造を復原しうるような一点集中的な発掘も必要であろう。

最後に、直接のヴァージン調査が許されていない我々、外国人研究者の課題は、公開された情報を可能な限り総合して、世界的な意義のあるテーマ——具体的な遺跡や調査目的——の設定で、共同調査の機会を増やすことにあるように思う。総合の完成度やテーマの普遍性と調査の具体目標が、ある程度に確立しておれば、かなり展望は開けてきそうである。91年度以来の調査で得た、開放・改革ラインを走る、現地のひとつの印象である。

おわりに

1991年からの中央アジア遊牧の実体調査は、それぞれの分野で、豊かな成果と多くの宿題を残した。もっぱら文献での歴史研究に従事していた筆者には、遺跡の周辺景観の共通性その規模の多様性を確認できたことが、大きな成果であった。

周辺の景観については、既述の通りである。また故城と称せられている遺跡の規模は、それらが「生きていた」時期の機能の証左であり、文献史料に記された諸城の立地や存在意義を、改めて考察する宿題を課せられたことになった。文献を残すことの少なかった古代遊牧民と視線を共有して、都市や外来文明の意味を考えることに、正解があるような予感がする。周辺文明の史料や現地（語）史料の整合を可能にする、もうひとつの現地資料を得た筆者の今後の課題である。

文 献

荒川正晴

- 1989-90 「新疆维吾尔自治区古代城跡一覽表Ⅰ～Ⅲ」『吐魯番出土文物研究会会報』26, 1-6, 27, 1-4, 38, 1-5。

池宝嘉

- 1990 『絲路庭州』烏魯木齊：新疆人民出版社。

戴良佐

- 1984 「独山城故跡踏勘記」『元史及北方民族史研究集刊』8, 107-108。
1989 「唐代庭州守捉城略考」『新疆文物』89(1), 96-101。
1991 「古塔巴城略考」『新疆文物』91(2), 58-60。
1992a 「奇台麻溝梁石城子遺跡踏勘記——兼論耿恭駐守的疏勒城方位」『新疆文物』1992(1), 44-47。
1992b 「唐代庭州守捉城今地考」『西北史地』92(1), 37-42。
1994 「唐渠犁即阜康考」『新疆文物』94(2), 116-117。

韓雪昆

- 1992a 「察合台汗国銅幣的發現及初步研究」『新疆文物』1992(1), 8-14。
1992b 「字羅城位置考弁」『新疆文物』1992(3), 83-89。

黃烈

- 1989 『黃文弼歷史考古論集』北京：文物出版社。

黃文弼

- 1958 『塔里木盆地考古記』北京：科学出版社。

蔣其祥・李有松

- 1990 「新疆博樂發現的察合台汗国金幣初步研究」『新疆文物』90(2), 71-80。

關耀平・閻順

- 1992 「吉木薩爾縣小西溝遺跡的初步調查」『新疆文物』1992(4), 64-67。

李有松

- 1991 「博樂市達勒特古發現察合台汗国銅幣」『新疆文物』1991(3), 39-43。

林必成

- 1979 「唐代輪（台）初探」『新疆大學學報』79(4), 39-50。

Mannerheim, C.

- 1940 *Across Asia from West to East in 1906-1908*, Vol. 1. The Fenno-Ugrian Society, Helsinki.

間野英二

- 1983 「『パーブル・ナーマ』の研究（1）——「フェルガーナ章」日本語訳——」『京都大學文學部研究紀要』22, 189-347。

孟凡人

- 1979 「弓月城和阿力麻里城方位考」『中國史研究』79(4), 129-135。
1985 『北庭史地研究』烏魯木齊：新疆人民出版社。

長澤和俊

- 1993 「新疆の日中共同學術調查概報 その2——付北疆遺跡參觀報告——」『內陸アジア史研究』9, 1-35。

白須淨眞

- 1988a 「清末民初のウルムチ（迪化城）の景観と大谷探検隊の記録」『（龍谷大学）東洋史苑』30・31, 83-120。
1988b 「長広数千里・北廷（庭）川」『東洋史苑』32, 1-56。
1990 「新疆维吾尔自治区における唐代の城郭遺址」『東トルキスタン都市の歴史的展開シンポジウム口頭発表表 handout』1-16, 1990年1月28日。

Stein, O.

- 1928 *Innermost Asia, Detailed Report of Explorations in Central Asia, Kan-su and Eastan*

Iran, Vol. II. Oxford: Oxford university Press.

譚旗光

1989 「吐魯番和奇台出土的元龍泉盤与鈞瓷」『新疆文物』89(4), 129.

王秉成

1992 「吉木薩爾發現的回鶻文銅幣」『新疆文物』92(1), 5-14.

王炳華

1987 「天山東段考古調查紀行 1」『新疆文物』87(3), 24-32.

1988a 「天山東段考古調查紀行 2」『新疆文物』88(1), 1-11.

1988b 「天山東段考古調查紀行 3」『新疆文物』88(4), 28-34.

王広榮

1989 「關於昌八里的位置」『新疆文物』89(1), 101-108.

魏大林

1987 「“赤金營都閩府” 印小考」『新疆文物』87(1), 70.

Wiens, H. J.

1963 *The Historical and Geographical Role of Urumuchi. Annals, Association of American Geographers* 53(4), 441-464.

辛文

1991 「石河子博物館籌備處成立」『新疆文物』91(2), 62.

薛宗正

1987 「新疆奇台境內的漢唐遺跡調查」『考古學集刊』5, 206-215.

1988 「務塗谷·金蒲·疏勒考」『西北史地』88(2), 75-84.

張承志

1981 (梅村 坦訳註)「王延徳の高昌——北庭経路考」『(東京外国語大学) アジア・アフリカ言語文化研究』22, 139-157.

1987 「關於阿力麻里·普刺·葉密立三城的調查及探討」『中国民族史研究』pp. 149-162, 北京: 中国社会科学出版社。

三十年

1983 新疆社会科学院考古研究所編『新疆考古三十年』烏魯木齊: 新疆人民出版社。

文物志

1988 新疆文化庁《新疆文物志》編輯室編『新疆文物志選稿』1, 烏魯木齊: 新疆文化庁《新疆文物志》編輯室。

資料選

1990 吉木薩爾県文管所『吉木薩爾文物宣傳資料選編』吉木薩爾: 吉木薩爾県文管所。

新収獲

1995 新疆社会科学院考古研究所『新疆文物考古新収獲』烏魯木齊: 新疆人民出版社。

地名志

1984 阜康県地名委員会編『阜康県地名図志』阜康: 阜康県地名委員会。

1985a 昌吉県地名委員会編『昌吉県地名図志』昌吉: 昌吉県地名委員会。

1985b 吉木薩爾県地名委員会編『吉木薩爾県地名図志』吉木薩爾: 吉木薩爾県地名委員会。

1985c 呼図壁県地名委員会編『呼図壁県地名図志』呼図壁: 呼図壁県地名委員会。

1985d 瑪納斯県地名委員会編『瑪納斯県地名図志』瑪納斯: 瑪納斯県地名委員会。

1985e 尼勒克県地名委員会編『尼勒克県地名図志』尼勒克: 尼勒克県地名委員会。

1986a 烏魯木齊市地名委員会編『烏魯木齊市地名図志』烏魯木齊: 烏魯木齊市地名委員会。

1986b 烏魯木齊県地名委員会編『烏魯木齊県地名図志』烏魯木齊: 烏魯木齊県地名委員会。

1986c 米泉県地名委員会編『米泉県地名図志』米泉: 米泉県地名委員会。

1986d 奇台県地名委員会編『奇台県地名図志』奇台: 奇台県地名委員会。

1986e 伊吾県地名委員会編『伊吾県地名図志』伊吾: 伊吾県地名委員会。

1986f 巴里坤哈萨克自治県地名委員会編『巴里坤哈萨克自治県地名図志』巴里坤哈萨克自治県: 巴里坤哈萨克自治県地名委員会。

1986g 石河子市地名委員会編『石河子市地名図志』石河子: 石河子市地名委員会。

1986h 特克斯県地名委員会編『特克斯県地名図志』特克斯: 特克斯県地名委員会。

1987 木壘県地名委員会編『木壘県地名図志』木壘: 木壘県地名委員会。

堀 天山北麓の故城跡

- 1988a 伊寧県地名委員会編『伊寧県地名図志』伊寧：伊寧県地名委員会。
- 1988b 察布查尔錫伯自治県地名委員会編『察布查尔錫伯自治県地名図志』察布查尔錫伯自治県：察布查尔錫伯自治県地名委員会。
- 1989a 温泉県地名委員会編『温泉県地名図志』温泉：温泉県地名委員会。
- 1989b 鞏留県地名委員会編『鞏留県地名図志』鞏留：鞏留県地名委員会。
- 1990a 博楽市地名委員会編『博楽市地名図志』博楽：博楽市地名委員会。
- 1990b 精河県地名委員会編『精河県地名図志』精河：精河県地名委員会。
- 1990c 烏蘇県地名委員会編『烏蘇県地名図志』烏蘇：烏蘇県地名委員会。
- 1991 地名委員会編『奎屯市地名図志』奎屯：奎屯市地名委員会。

州地名志

- 1988 昌吉回族自治州地名委員会編『昌吉回族自治州地名図志』昌吉回族自治州：昌吉回族自治州地名委員会。

地方志

- 1992a 『博楽市志』（新疆維吾尔自治区地方志叢書）烏魯木齐：新疆人民出版社。
- 1992b 『呼図壁県志』（新疆維吾尔自治区地方志叢書）烏魯木齐：新疆人民出版社。
- 1993a 『瑪納斯県志』（新疆維吾尔自治区地方志叢書）烏魯木齐：新疆大学出版社。
- 1993b 『巴里坤哈萨克自治県志』（新疆維吾尔自治区地方志叢書）烏魯木齐：新疆大学出版社。
- 1994a 『伊吾県志』（新疆維吾尔自治区地方志叢書）烏魯木齐：新疆大学出版社。
- 1994b 『奇台県志』（新疆維吾尔自治区地方志叢書）烏魯木齐：新疆大学出版社。
- 1994c 『農八師墾区石河子市志』（新疆維吾尔自治区地方志叢書）烏魯木齐：新疆人民出版社。
- 1997 『塔城地区志』（新疆維吾尔自治区地方志叢書）烏魯木齐：新疆人民出版社。
- 1998 『霍城県志』（新疆維吾尔自治区地方志叢書）烏魯木齐：新疆人民出版社。